

令和5年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果の公表にあたって
武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校（11校）全体

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

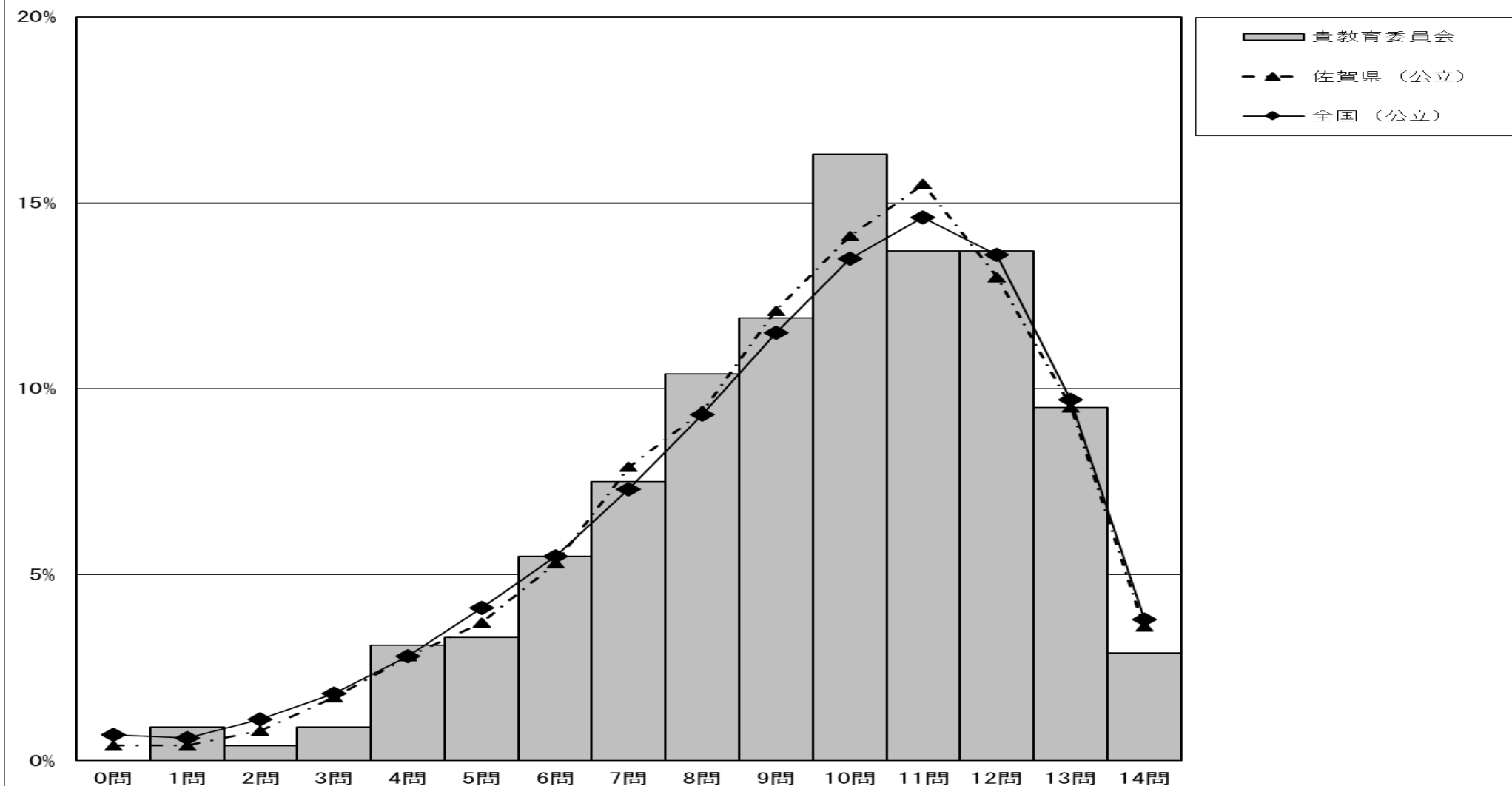
H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.4	68.0	49.8	62.0
	(1.02)	(1.00)	(0.98)	(1.02)
	R 5 正答率の全国比			0.99

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

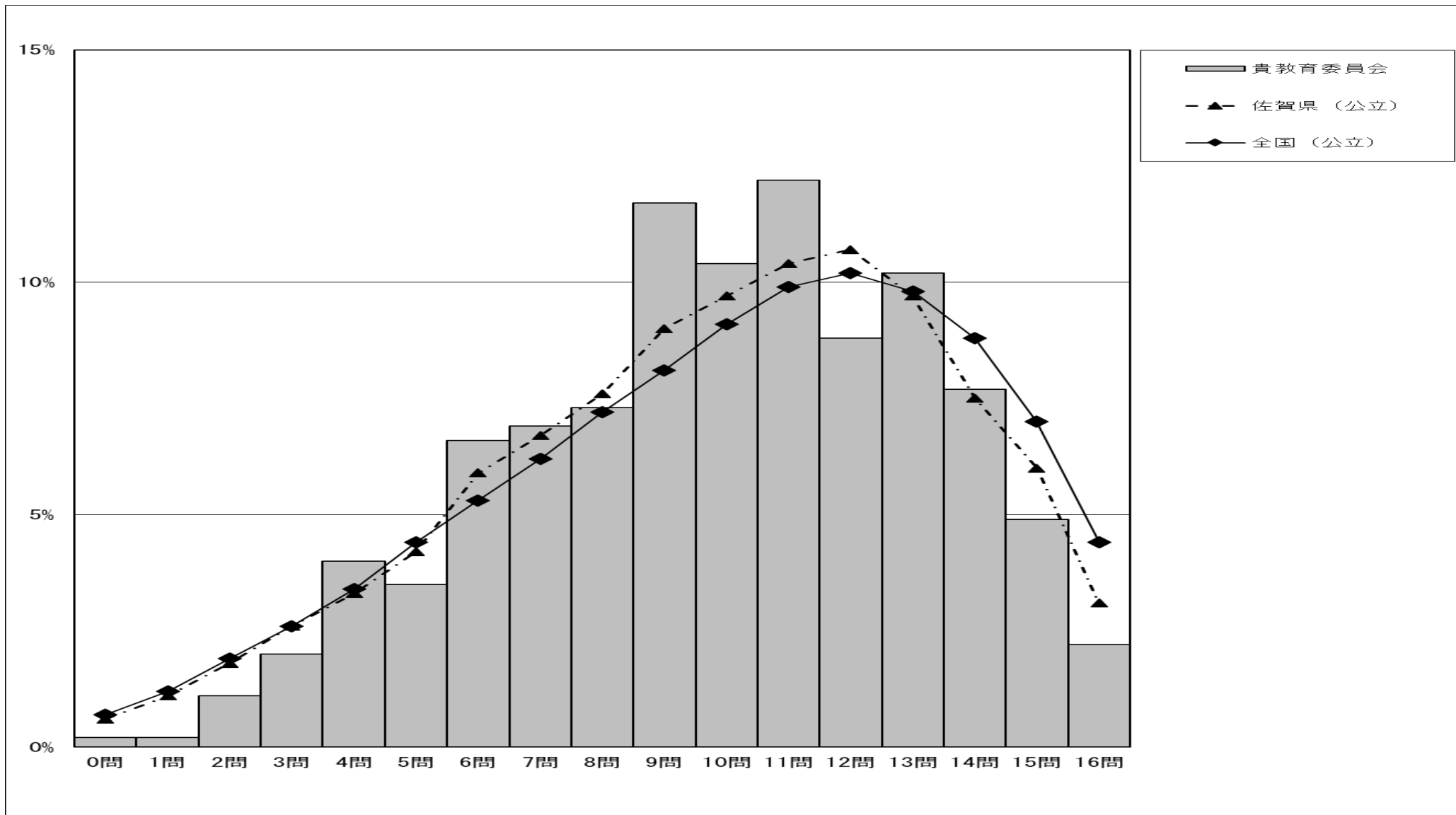
◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6国語）



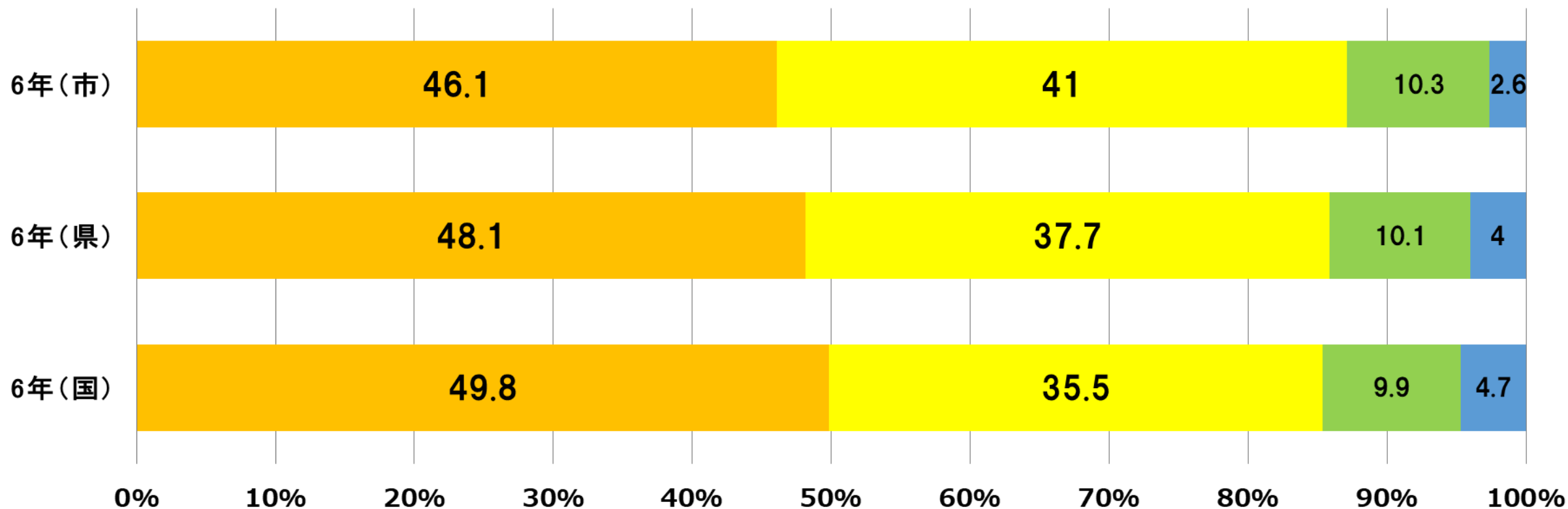
文部科学省 令和5年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6算数）



文部科学省 令和5年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

学校に行くのは楽しいと思いますか



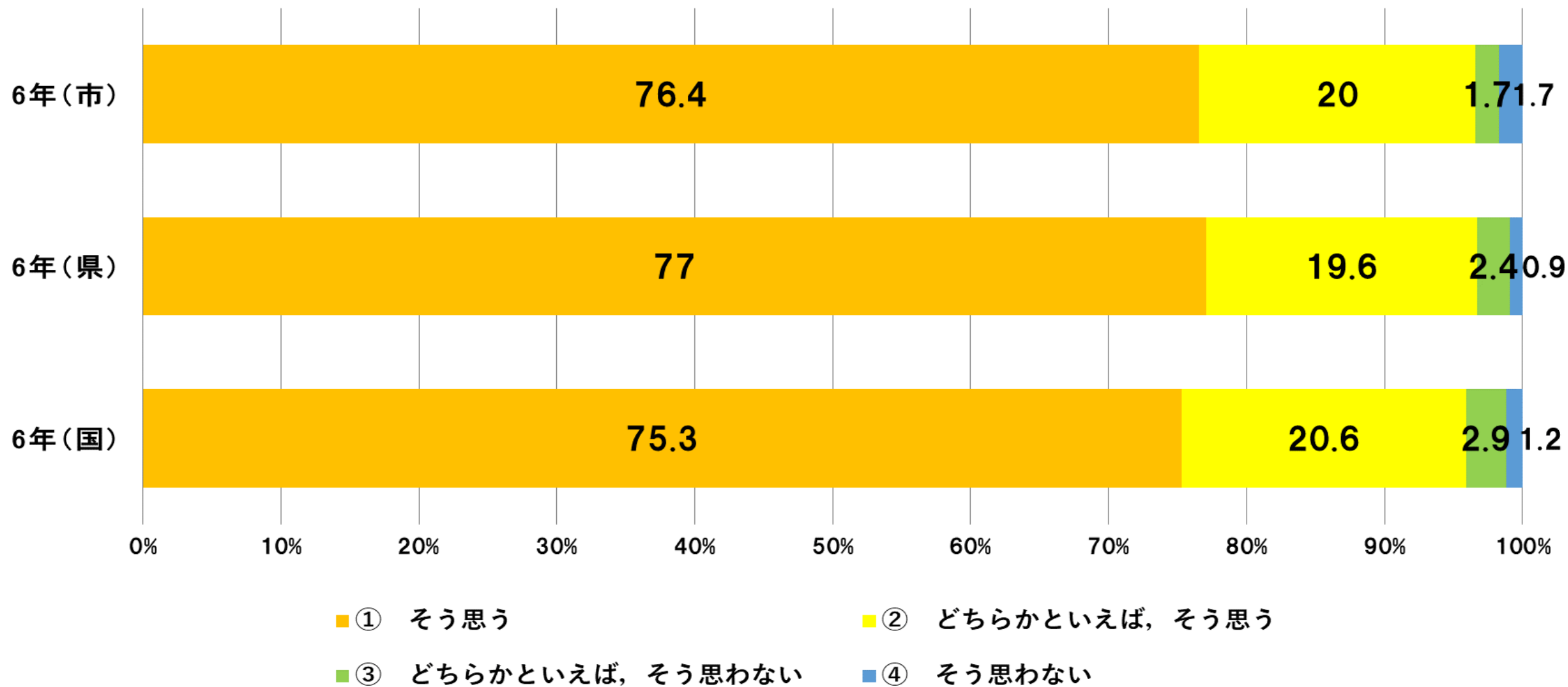
■ ① 当てはまる

■ ② どちらかといえば、当てはまる

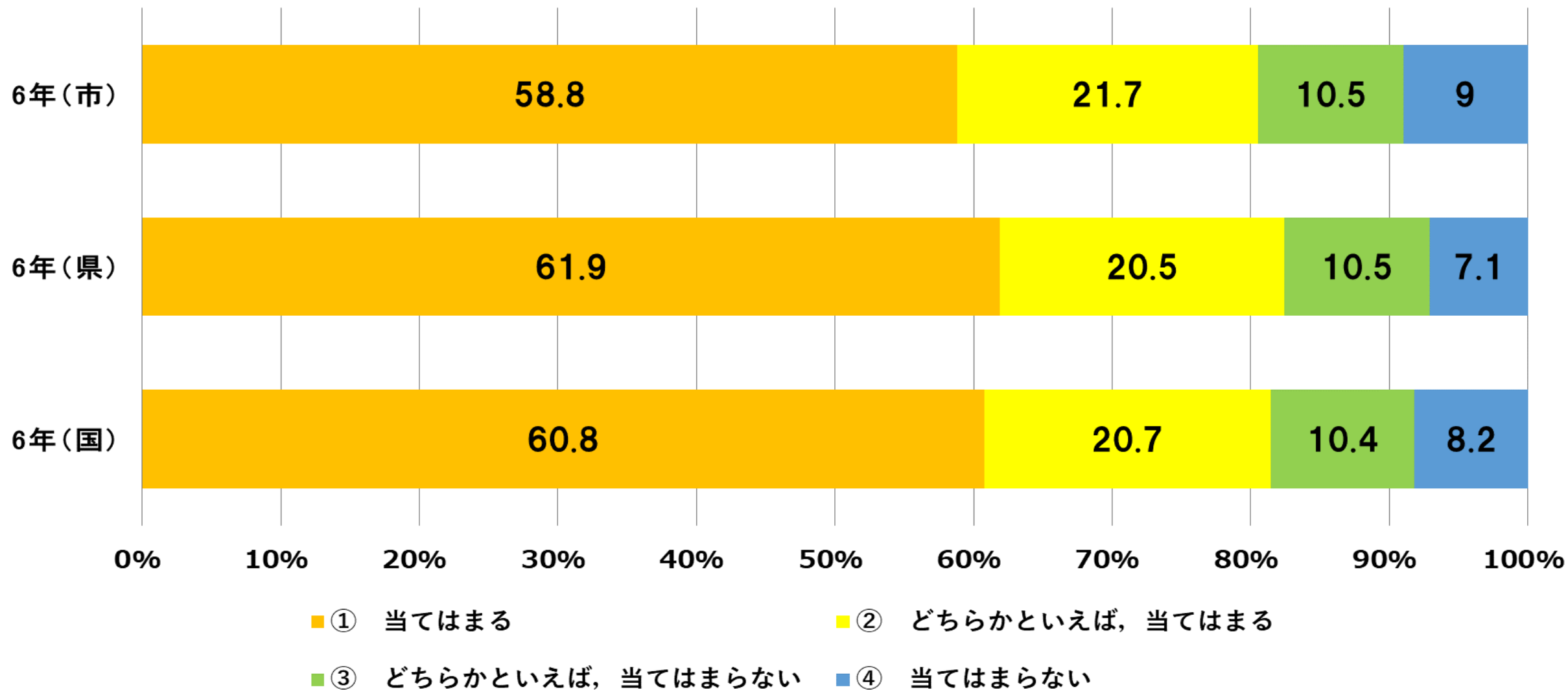
■ ③ どちらかといえば、当てはまらない

■ ④ 当てはまらない

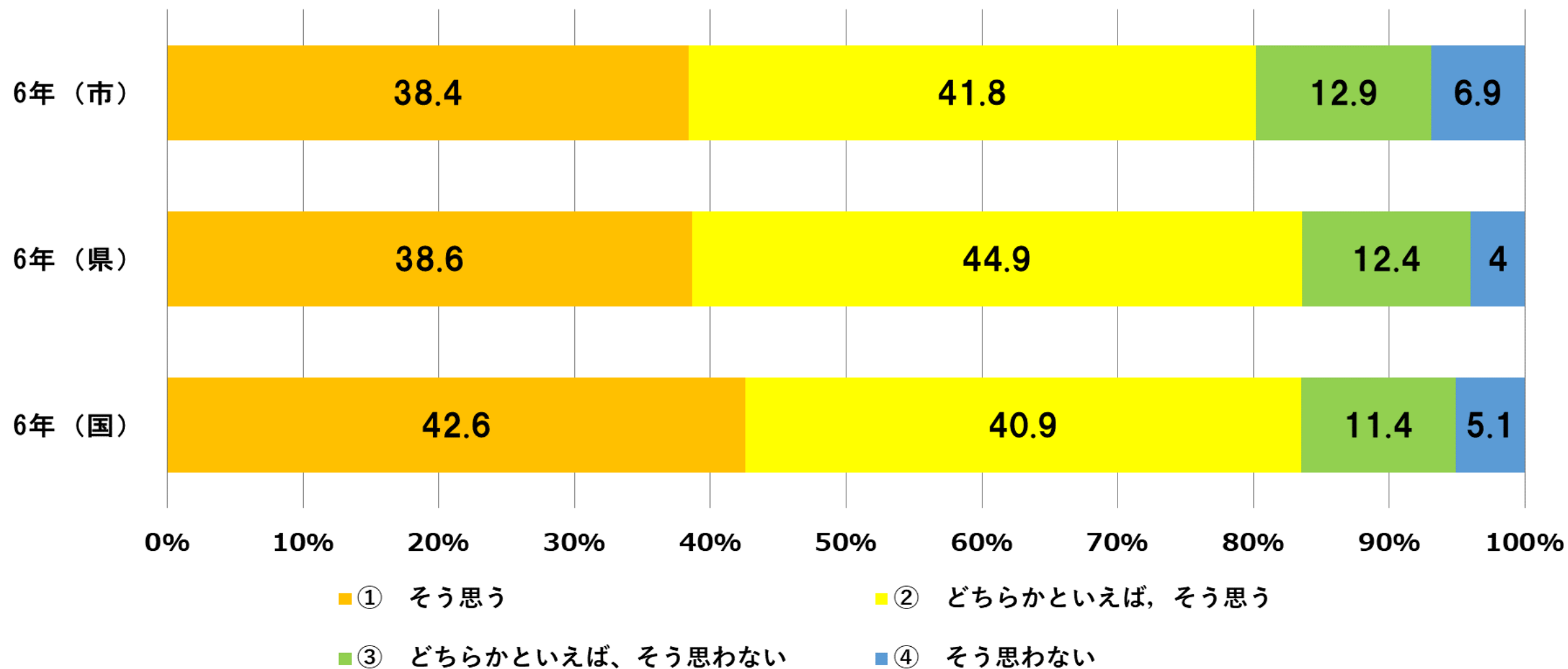
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



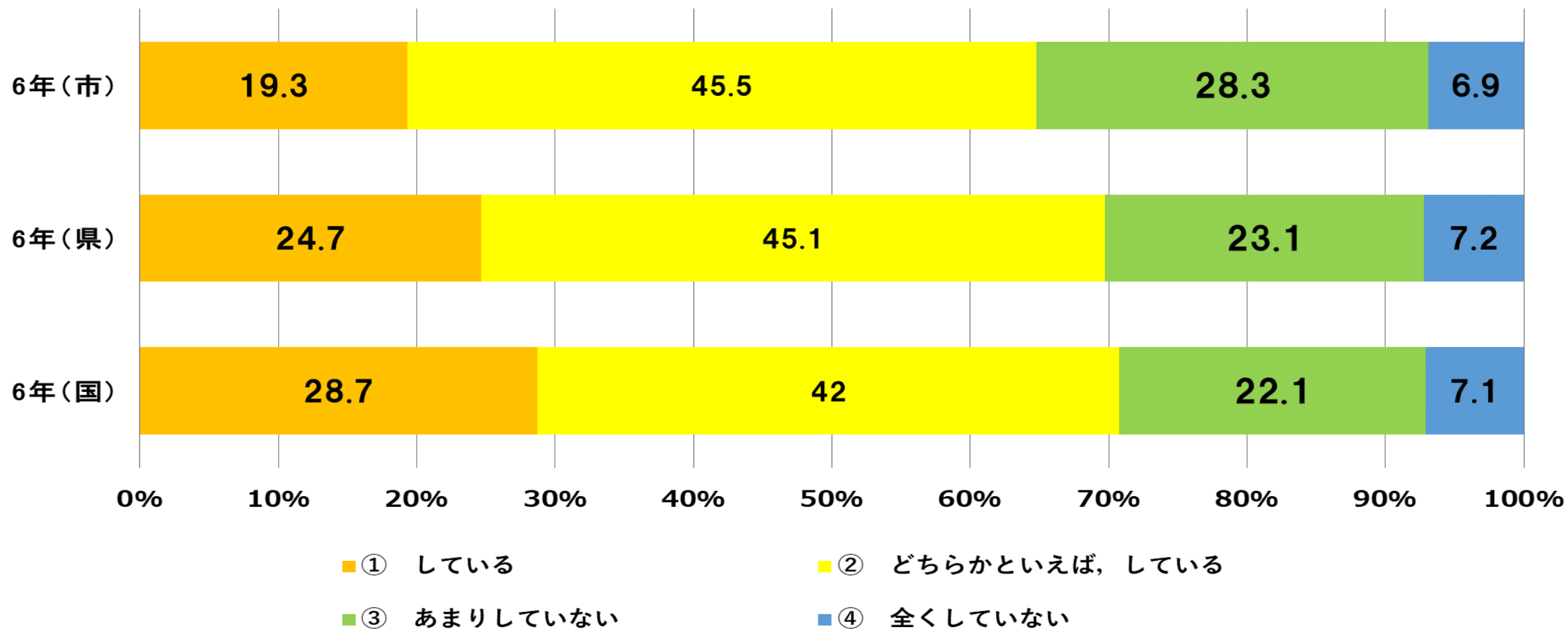
将来の夢や目標を持っていますか



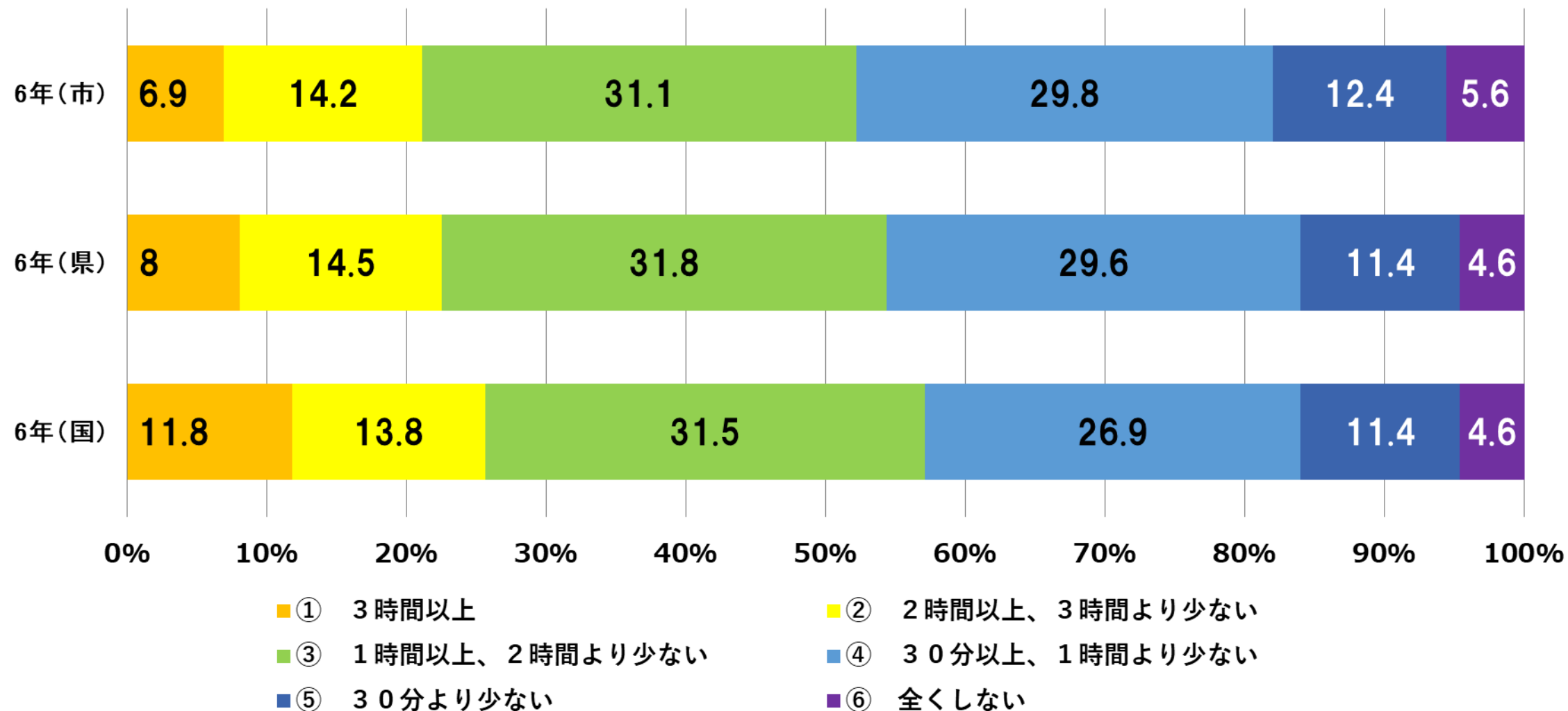
自分には、よいところがあると思いますか



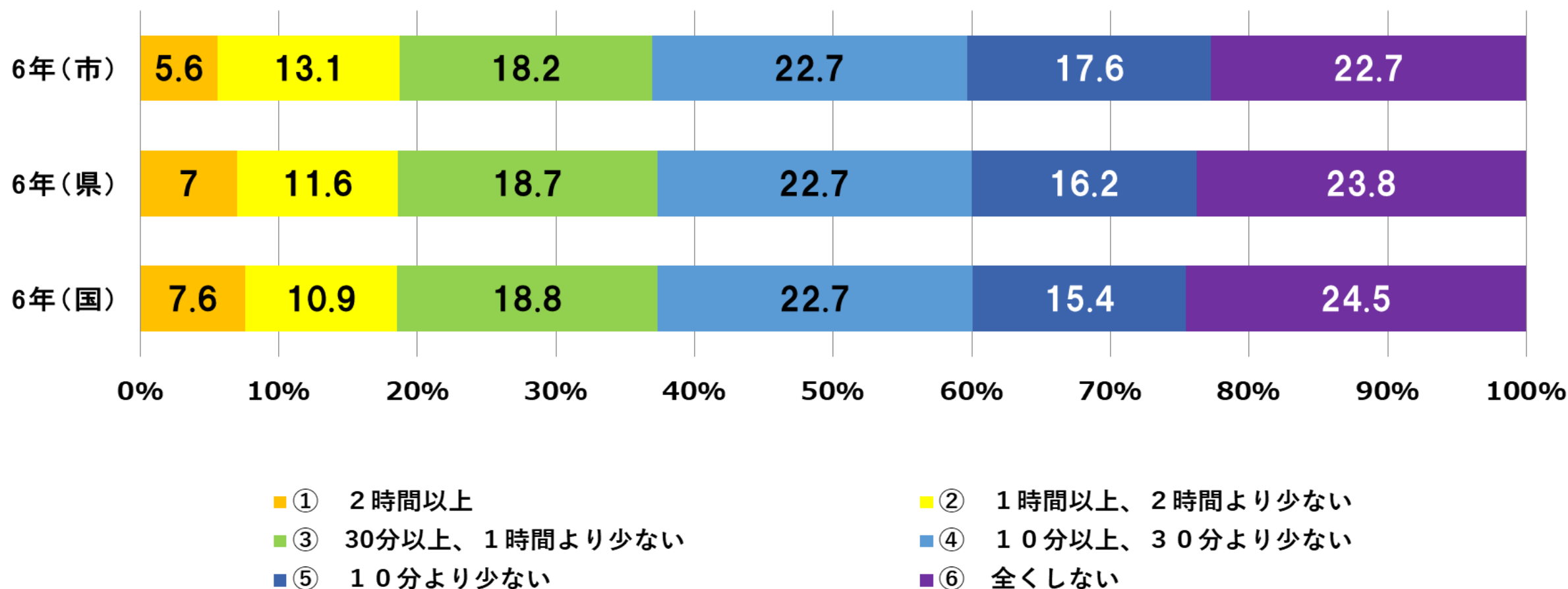
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



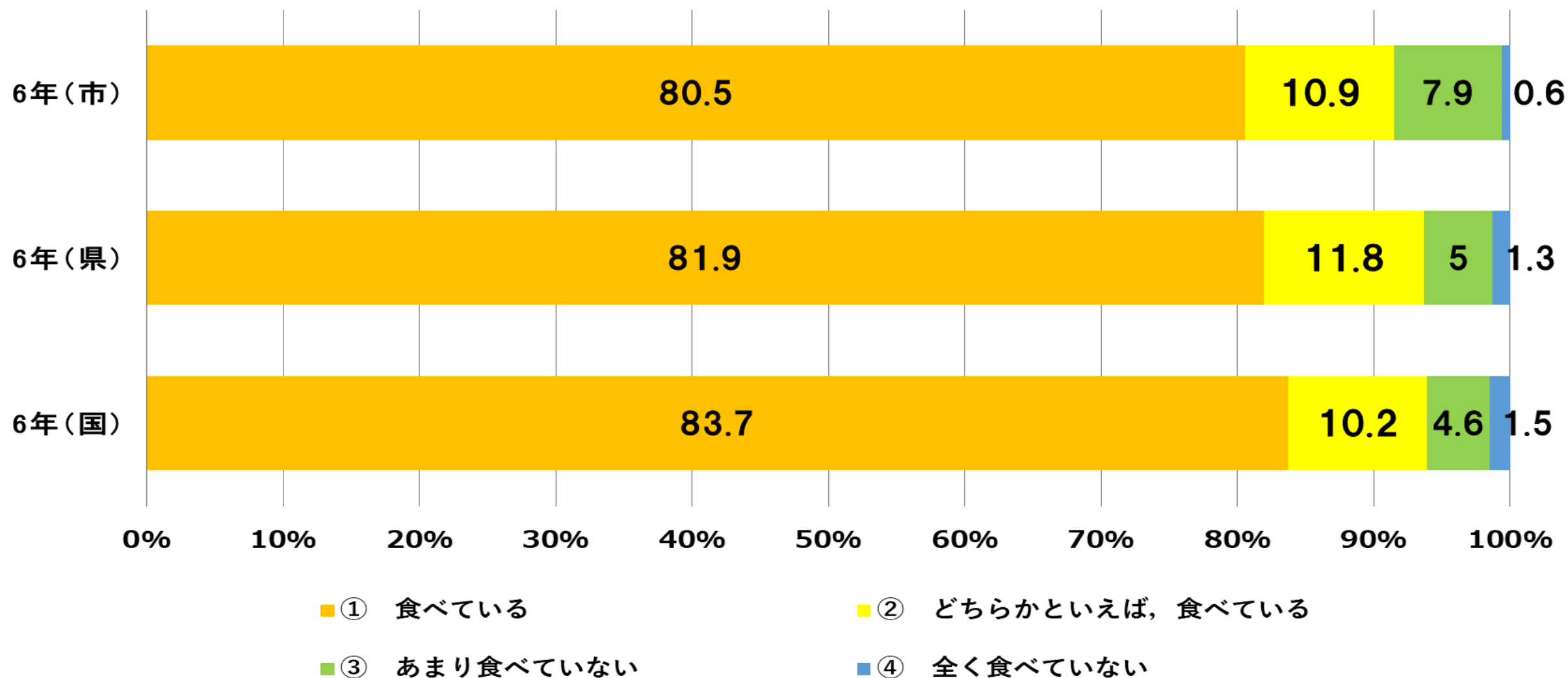
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり どれくらいの時間、勉強をしますか



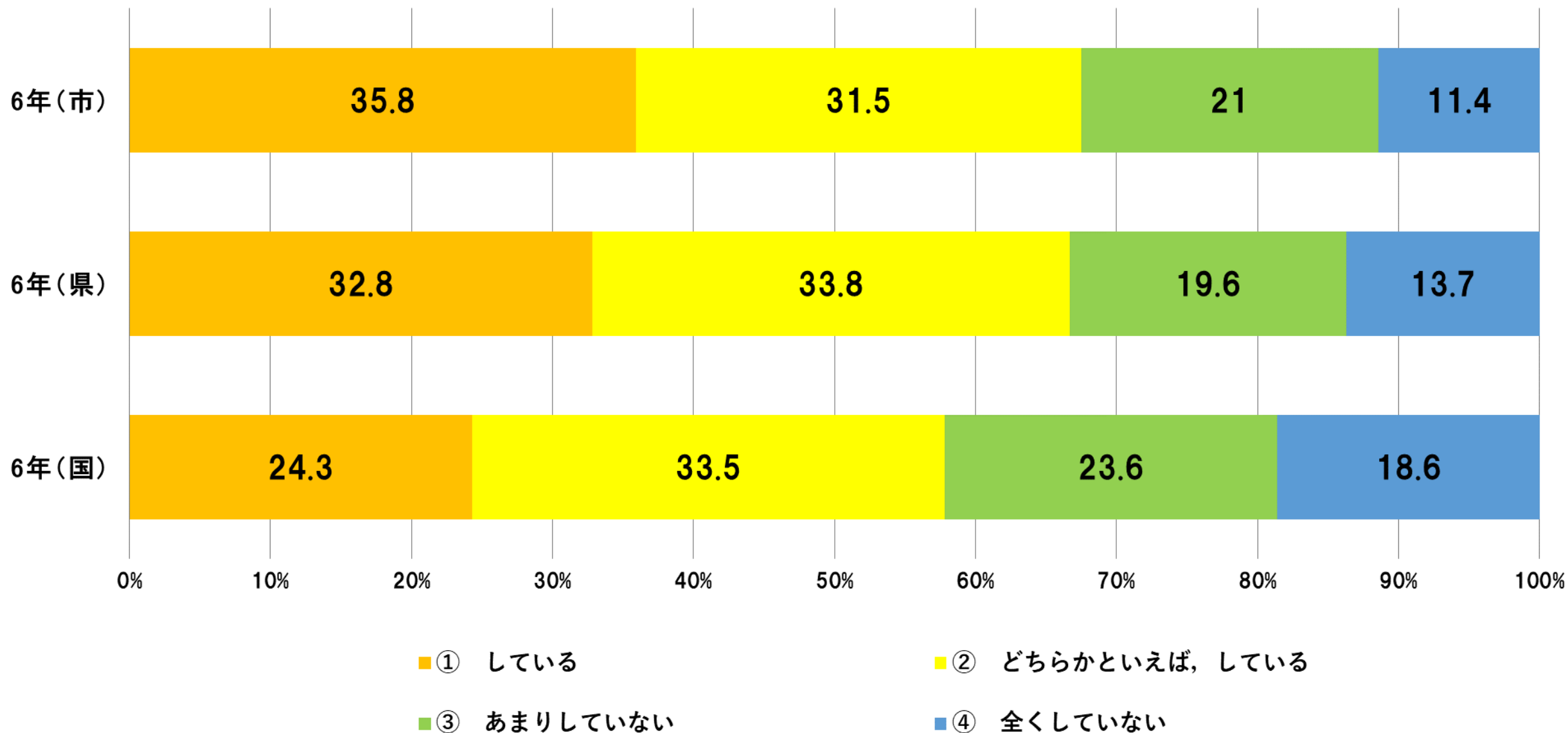
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



朝食を毎日食べていますか



今住んでいる地域の行事に参加していますか



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（小学校）

- 国語の調査では、全国を0.01ポイント上回り、県とは同等の結果であった。算数は、全国を0.01ポイント下回り、県を0.02ポイント上回った結果であった。昨年度よりも両教科改善がみられた。
- 国語は、昨年度と比較すると、高得点層の中でも正答数が12問以上（問題数全14問）の割合は、昨年度を7.2ポイント上回った。全国との12問以上の正答率の割合も昨年度と比較すると、4.8ポイント縮まった。低得点層も昨年度と比較すると10ポイント減少しており、大きく改善した。算数は、高得点層が、昨年度と比較すると、7.6ポイント減少したものの、低得点層も9.9ポイント減少しており、こちらも改善している。
- 意識調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、昨年度の6年生の肯定的な回答をした割合は、県、全国共に若干ではあるが、上回り、改善していた今年度、同様の回答をした児童の割合は県を1.3ポイント、全国を1.8ポイント上回っており、さらに改善がみられた。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、昨年度の6年生の肯定的な回答をした割合は、県を1.8ポイント、全国を0.6ポイント上回っており、改善していた。今年度、同様の回答をした児童の割合は、昨年度とほぼ同様の結果だったが、県・全国ともに3.3ポイント下回った。特に、「当てはまる」と回答した児童の割合が4割に満たなかった。
- 意識調査の「自分で計画を立てて勉強していますか。」という質問に対しては、昨年度の6年生の肯定的な回答をした割合は、県を3.3ポイント、全国を1.7ポイント上回り、改善していた。しかし、今年度、同様の回答をした児童の割合は県を5ポイント、全国を5.9ポイント下回っており、課題となった。
- 意識調査の「学校の授業時間以外で1日当たりどのくらい勉強しているか」という質問に対して、昨年度の6年生の児童が「1時間以上3時間以内」と回答した割合は、全国を1.8ポイント下回ったものの、県は2.7ポイント上回り、改善傾向にあったが、今年度は、県を1.1ポイント、全国を4.9ポイント下回り、課題がみられた。約半数の児童しか学年相当の学習時間の確保ができていない。また、土日の学習時間について、「1時間以上」と回答した割合は、県、全国共に依然として下回っている。
- 意識調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、昨年度は否定的な回答した児童が減少していたが、今年度は、同様の回答をした児童の割合が、1.3ポイント増加していた。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 正答数分布グラフに見られるように、課題だった低得点層の底上げと高得点層の拡大がみられ、国語・算数共に改善がみられた。今後も継続して調査対象学年だけでなく、低学年からの学力向上について研修を行い、実践していく。
- 誤答分析を行って、課題を見つけ、授業や宿題等で補充学習する機会を必ず設ける。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための授業改善や職員の授業力向上に努める。
- タブレットドリル等を活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の特質を生かしながら学習用端末を活用していく。

○意識調査の結果を受けて

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、昨年度も肯定的な回答が増加していたが、今年度も増加した。引き続き、各学校で工夫をしながら教育活動を進めていく。
- 家庭で「1時間以上の学習」している児童は6割に満たない。また、「自分で計画を立てて学習」を「よくしている」と回答した児童は2割に満たない。このことから、自分の学習計画と実際の学習時間の相関関係について、児童自身が振り返ることができるよう「見える化」を図り、家庭での学習の充実につなげたい。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校（5校）全体

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

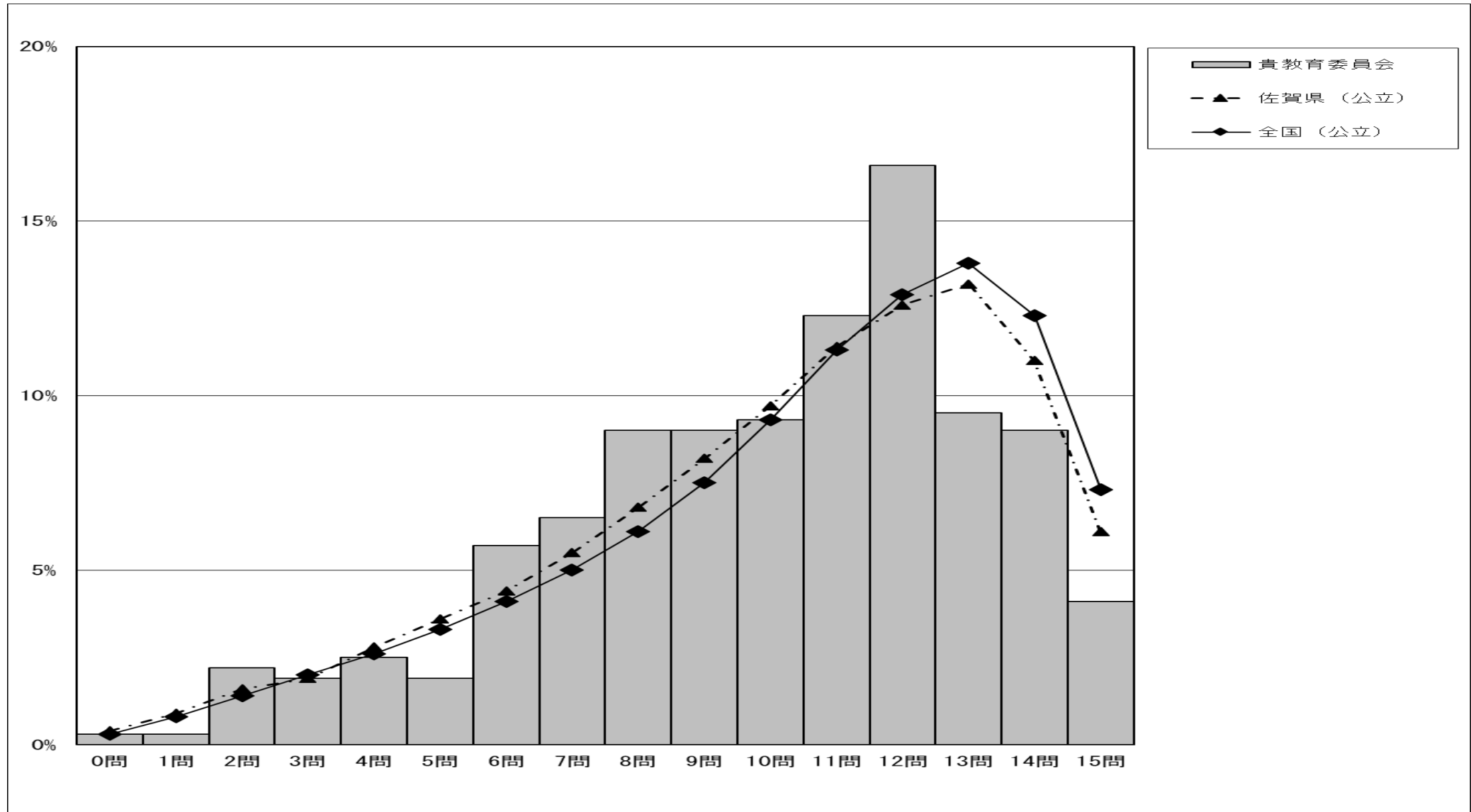
R 3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.5	53.6	67.0	47.3	35.1	42.0	52.6	50.5	36.0
	(0.96)	(0.95)	(0.99)	(0.91)	(0.87)	(0.89)	(0.95)	(0.92)	(0.92)
R 5 正答率の全国比			0.96			0.82			0.79

◎ 1 ・ 2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

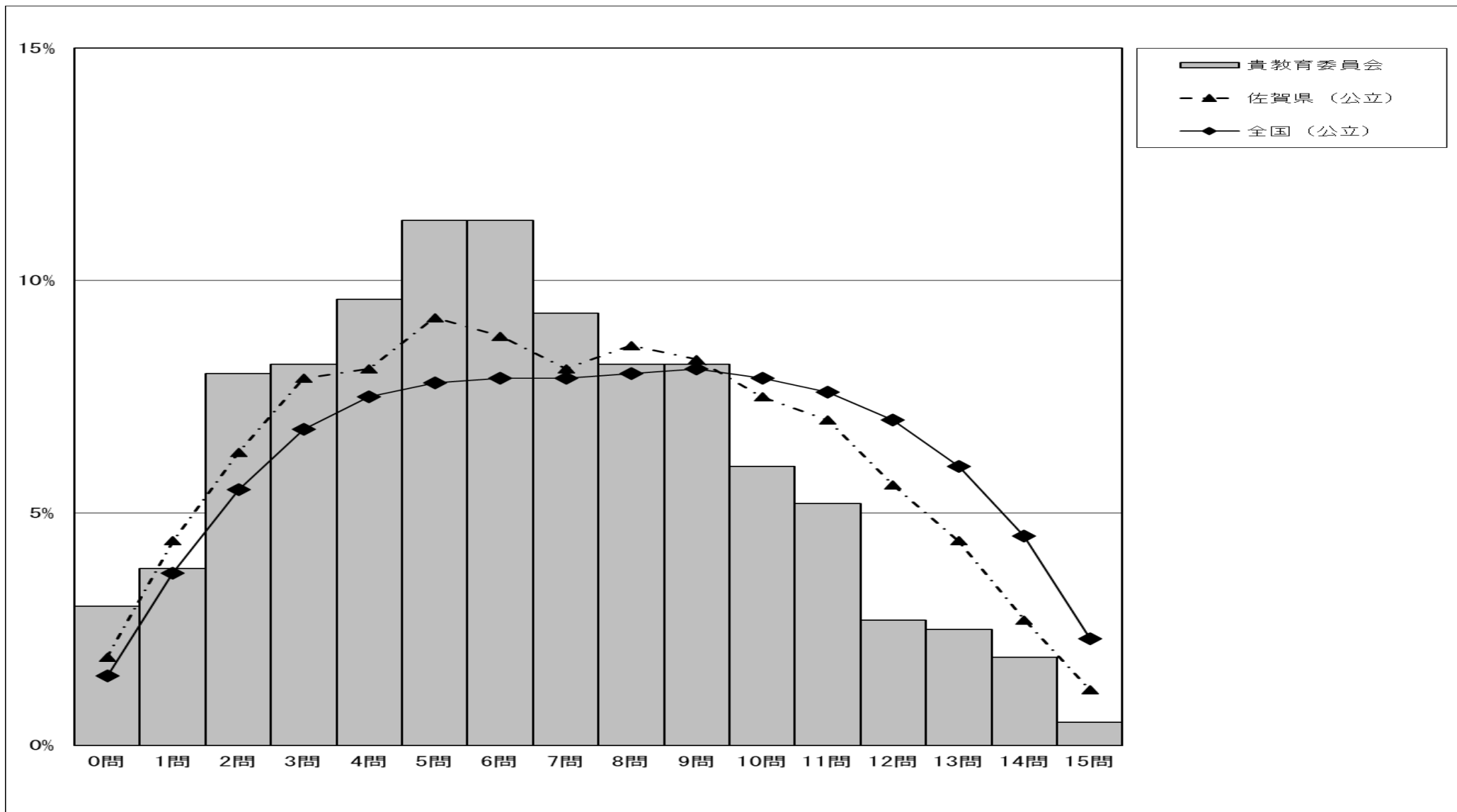
◎「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3国語）



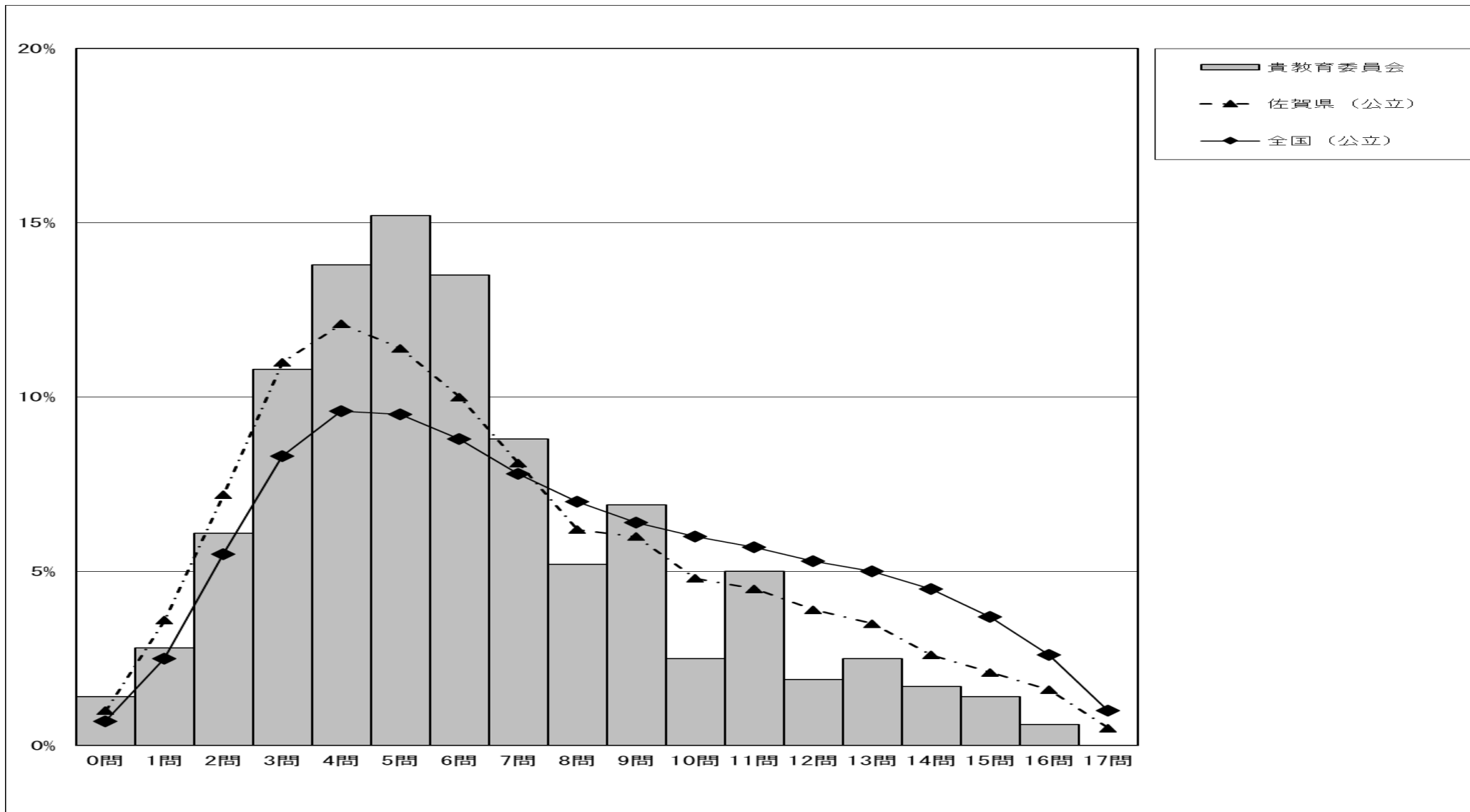
文部科学省 令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3数学）



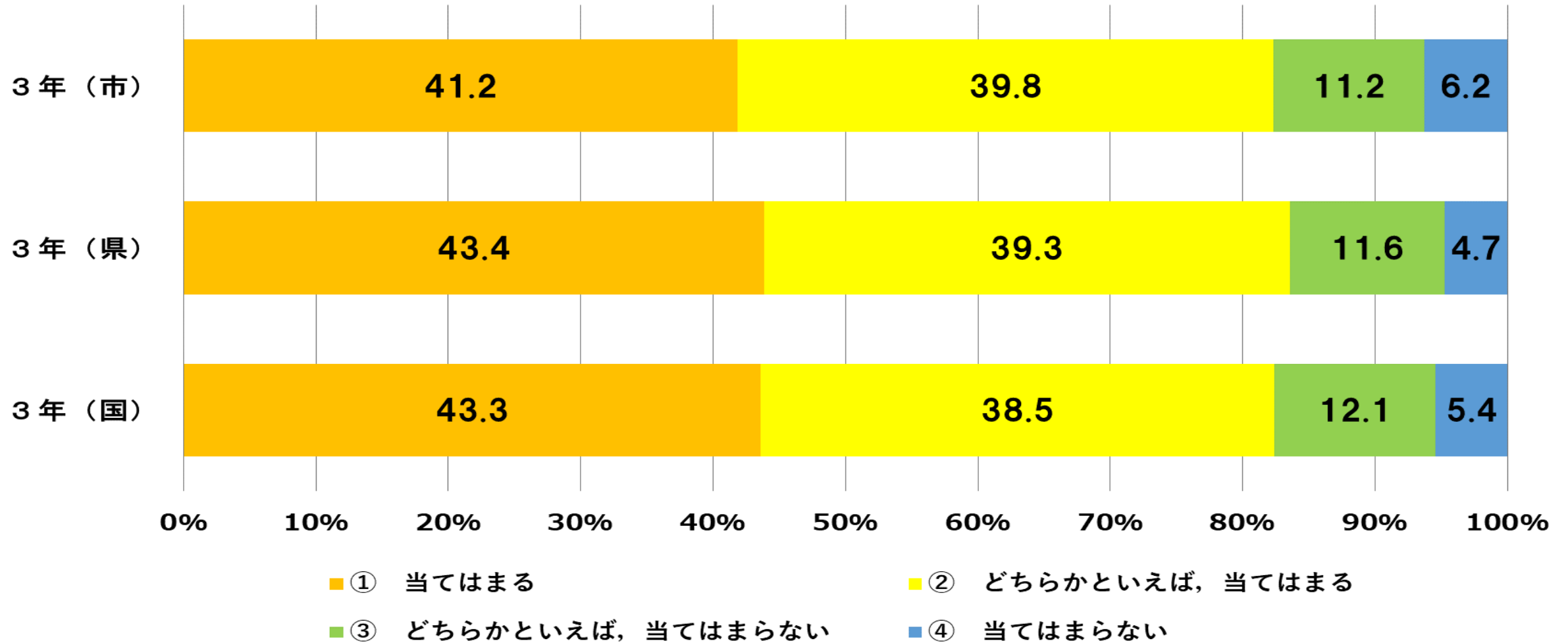
文部科学省 令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3英語）

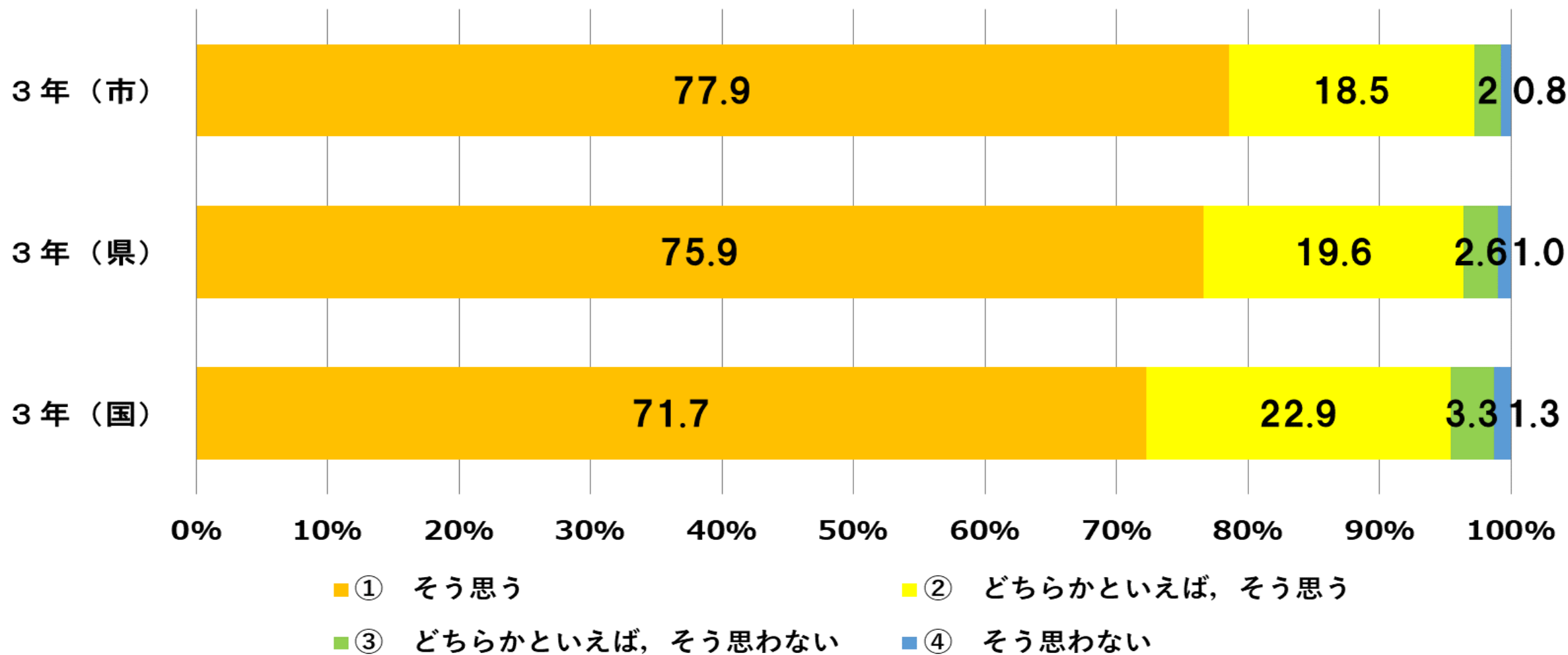


文部科学省 令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

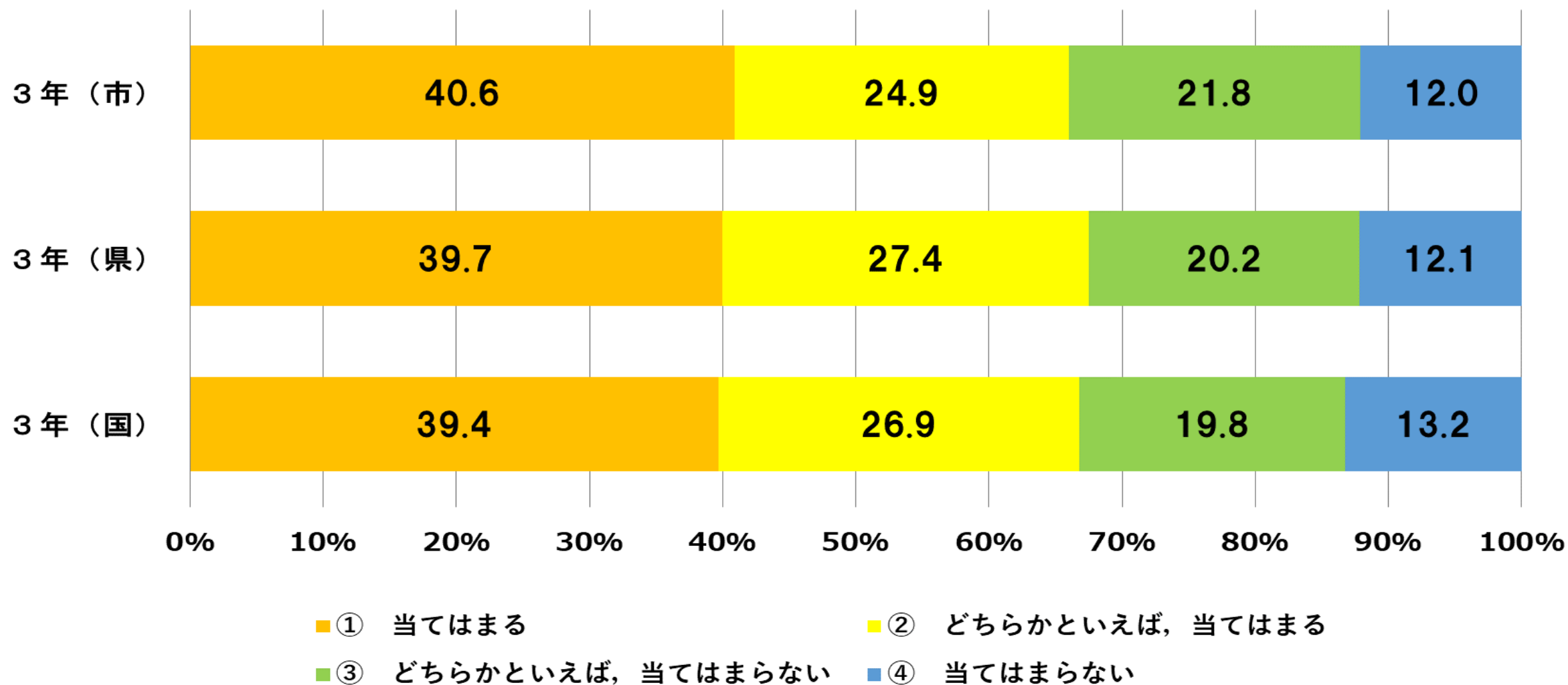
学校に行くのは楽しいと思いますか



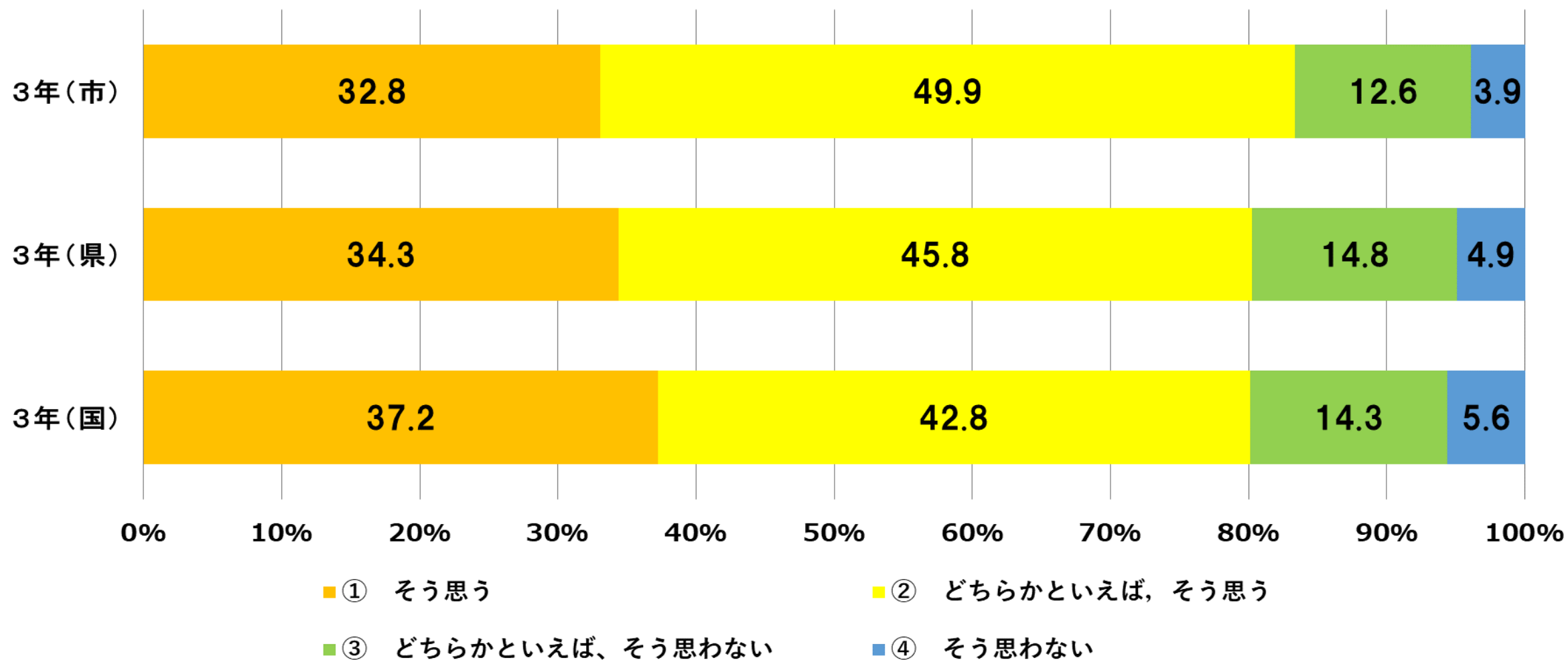
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



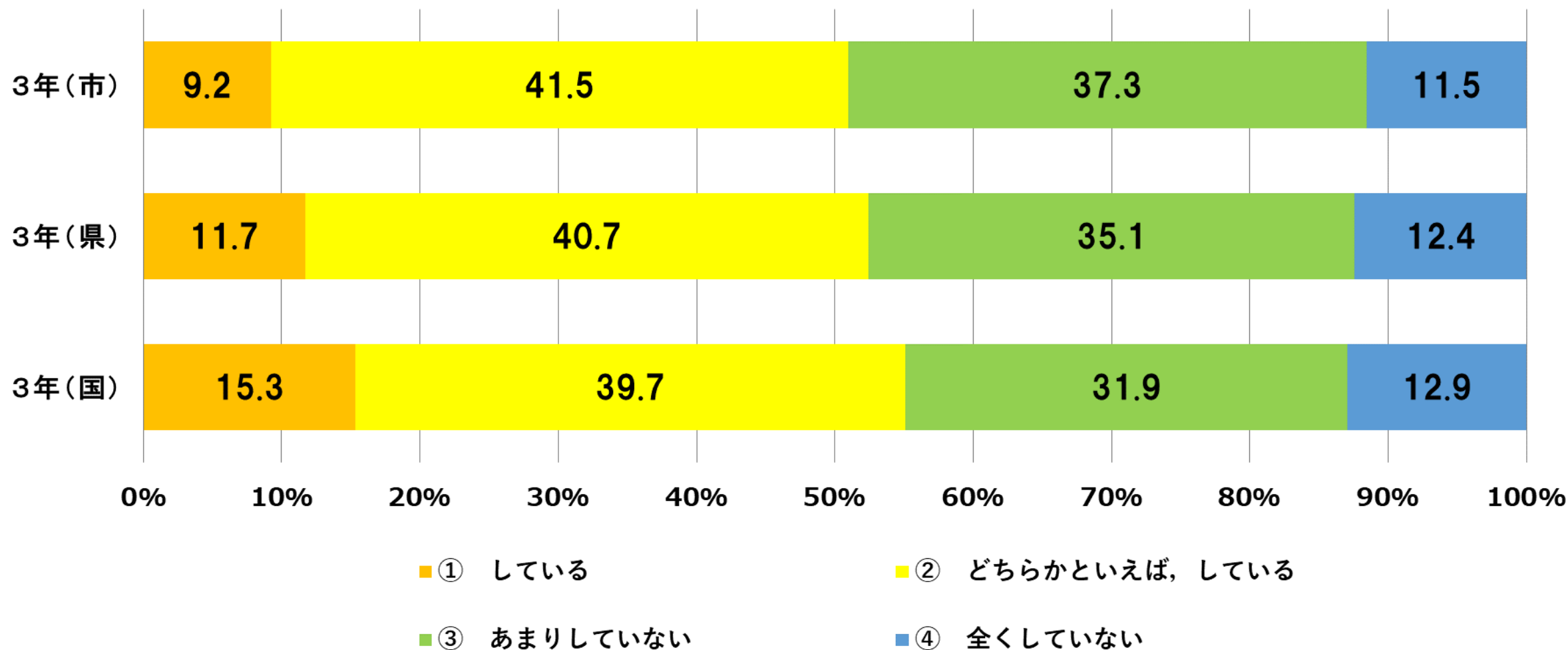
将来の夢や目標を持っていますか



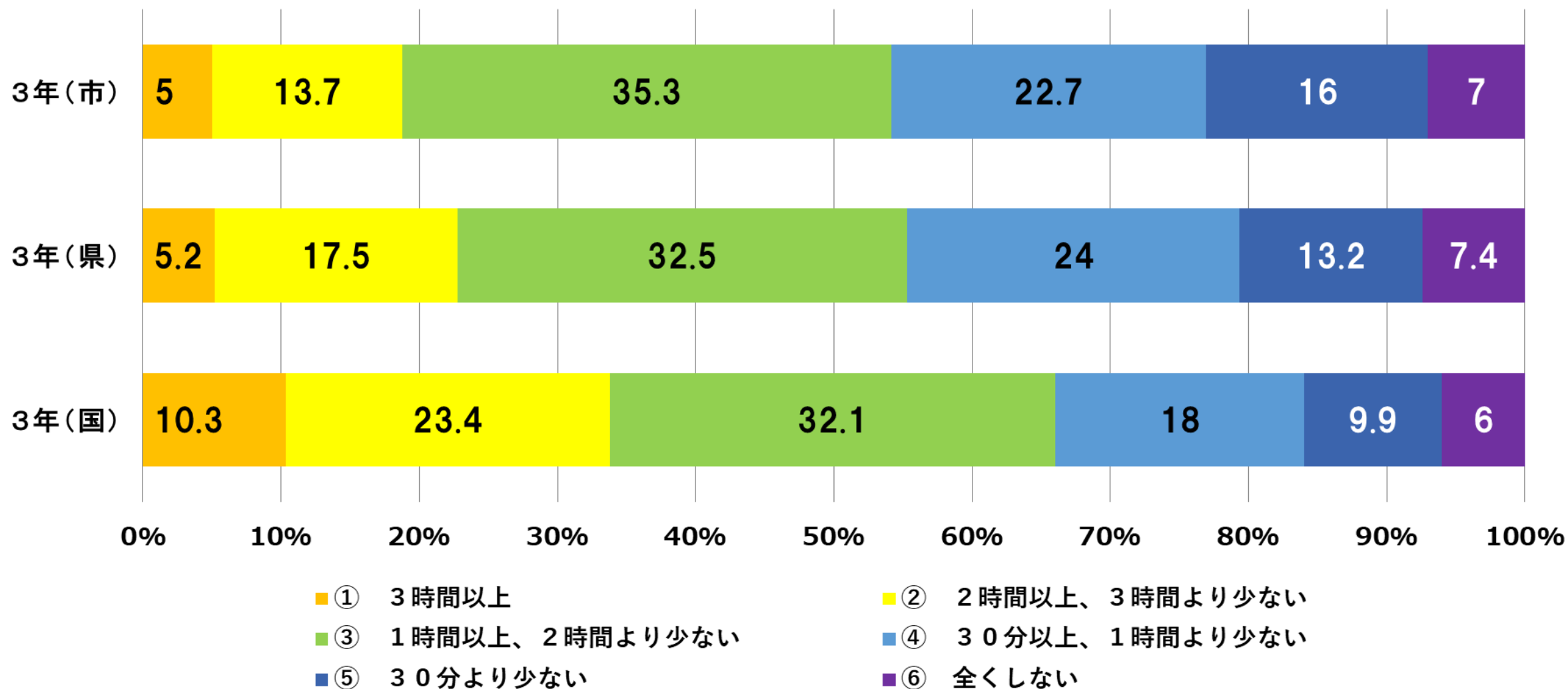
自分には、よいところがあると思いますか



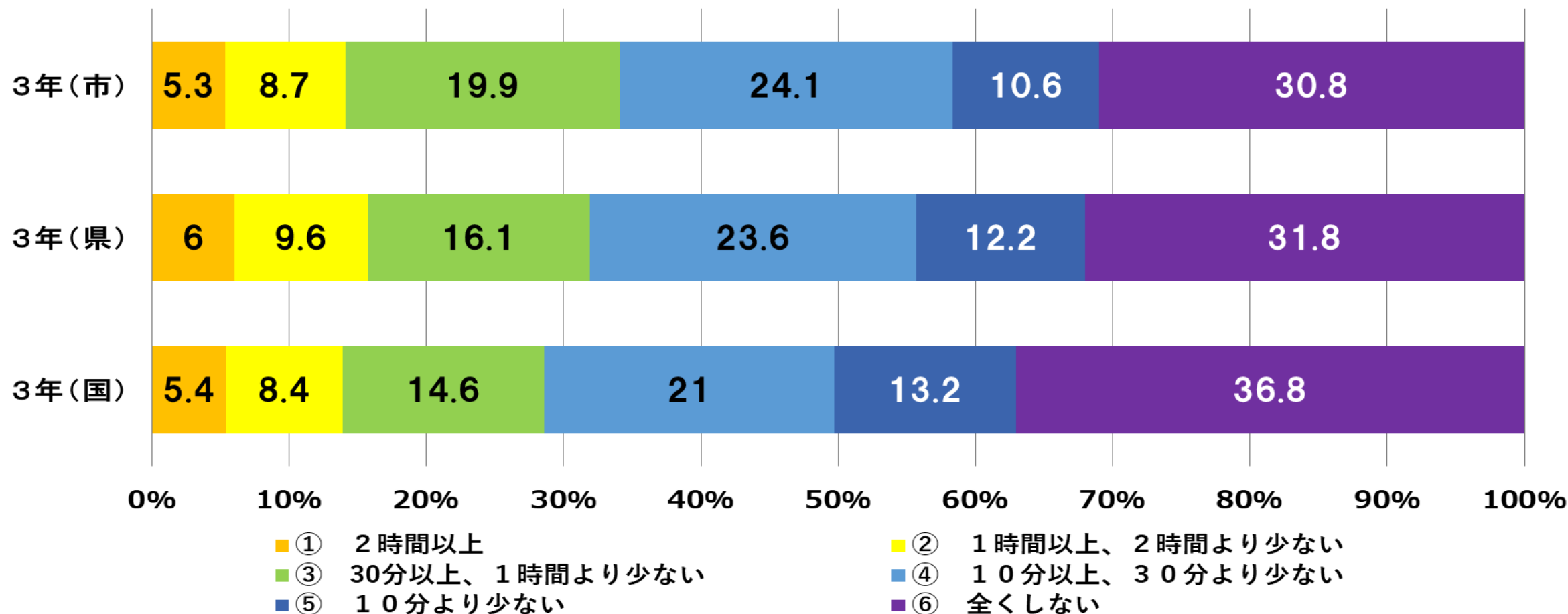
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



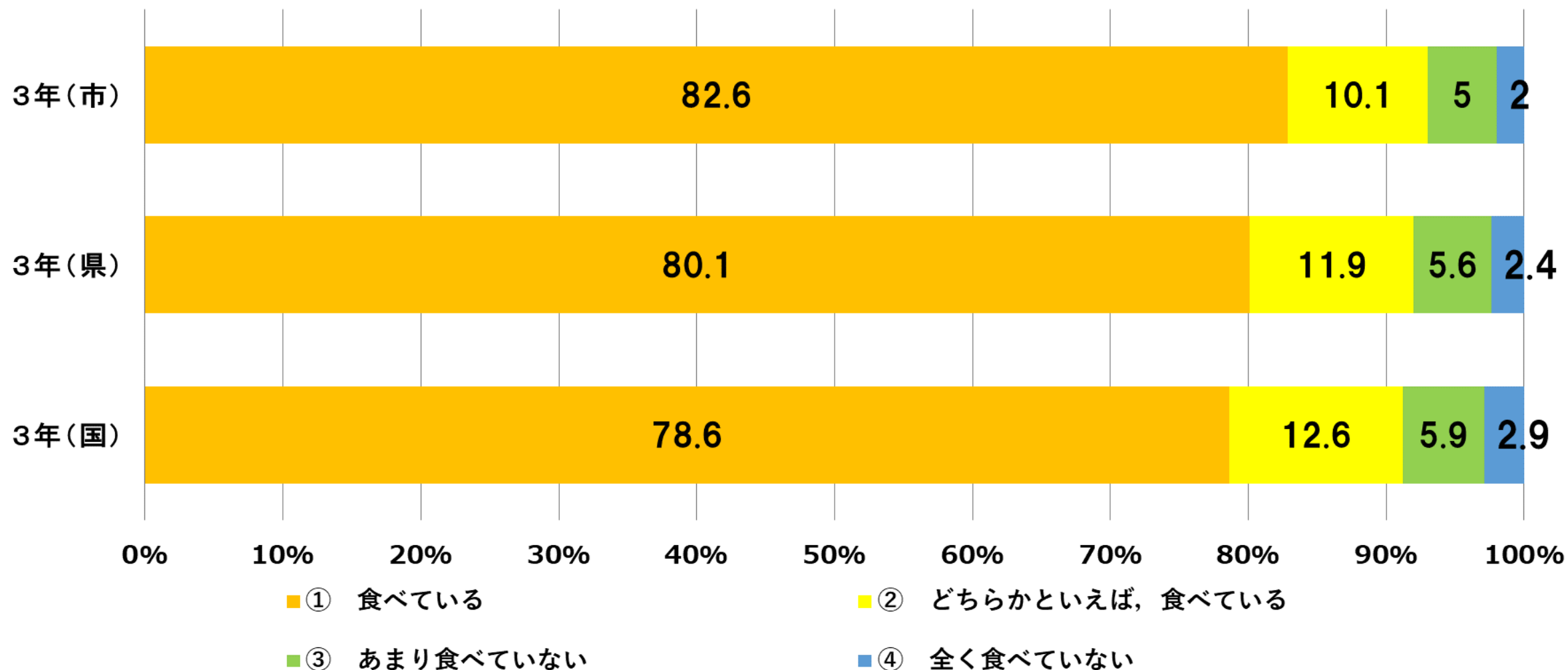
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか



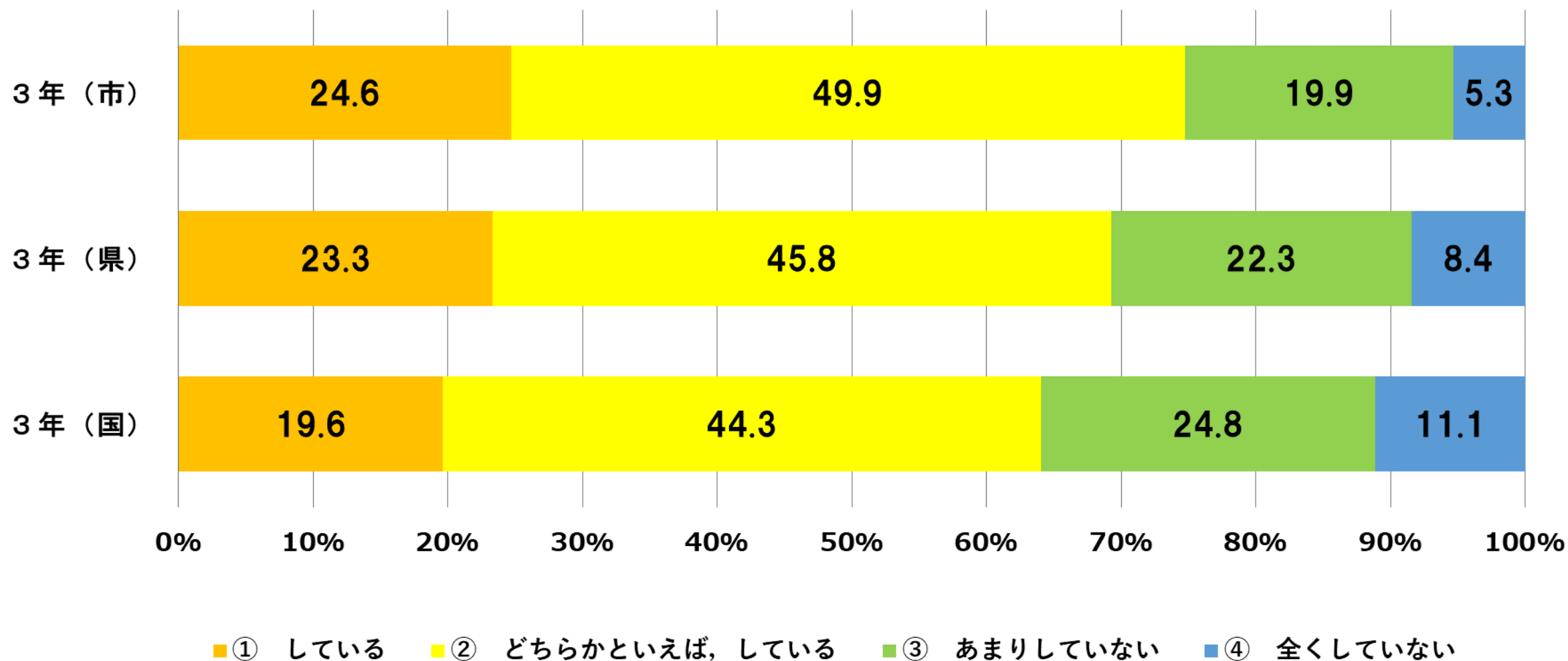
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



朝食を毎日食べていますか



今住んでいる地域の行事に参加していますか



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（中学校）

- 国語では、県を0.01ポイント、全国を0.04ポイント下回った。数学は県を0.11ポイント、全国を0.17ポイント下回った。英語は県を0.08ポイント、全国を0.21ポイント下回った。昨年度と比較すると、国語は、県との比較では変化はないが、全国との比較では0.05ポイント改善した。数学は、県を0.05、全国共に0.03ポイント昨年度よりもさらに下回り課題がみられた。英語も前回調査と比較すると、県、全国共に0.1ポイント程度下回っており、課題がみられた。
- 国語では、高得点層の中でも正答数が12問以上（問題数全14問）の割合は、昨年度と比較すると2.8ポイント下回ったものの、低得点層も8.9ポイント減少したことから、ここ数年の課題であった低得点層の底上げがみられた。数学では、昨年度と比較すると、高得点層が4.8ポイント減少し、低得点層が2.0ポイント増加しており、引き続き課題がみられた。英語も同様に、前回調査と比較すると、高得点層が1.1ポイント減少し、低得点層が35ポイント増加したことから、引き続き課題がみられた。数学と英語では、中間から下位層が多く、全体的に中得点層の底上げが求められる。
- 意識調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、昨年度は80.4%の生徒が肯定的な回答をし、今年度は81%の生徒が肯定的な回答をした。若干改善傾向にあるが、昨年同様に、県、全国共に下回った。
- 意識調査の「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に対しては、昨年度は66.1%の生徒が肯定的な回答をしたが、県、全国共に若干下回っていた。今年度も、65.5%で、県を1.6ポイント、全国を0.8ポイント下回った。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、昨年度県、全国共に上回っていた。今年度も同様に、県を2.6ポイント、全国を2.7ポイントさらに上回っていた。
- 意識調査の「自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対して、「している」と回答した生徒の割合は昨年度は54%で、今年度は、さらに下回り50.7%だった。家庭での学習時間（1時間以上）は、昨年度は、55.9%で県を4.2ポイント、全国を14.0ポイント下回った。今年度は、54%で昨年度をさらに下回り、県を1.2ポイント、全国を11.8ポイント下回った。特に2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は18.7%で2割に満たず、全国と比較すると、15ポイント下回り、昨年よりその差が若干広がった。土日の家庭学習時間も同様の傾向で家庭学習の習慣化は引き続き課題といえる。
- 意識調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、昨年度も肯定的回答が県、全国共に上回っていたが、今年度も同様の傾向であった。特に「当てはまらない」と回答した生徒の割合は、全国を10P上回り、90.2%の生徒が「いじめはどんな理由があっても許されない」と理解していることが分かった。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 国語では、低得点層が減少し、課題だった底上げについて、改善がみられた。しかし、数学と英語については、引き続き低・中得点層の底上げに向けて取り組んでいく。
- 誤答分析を行って、課題を見つけ、授業や宿題等で補充学習する機会を必ず設ける。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための指導方法の改善や職員の授業力向上に努める。
- タブレットドリル等を活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の特質を生かしながら学習用端末を活用していく。
- キャリア教育についても各学校で意識して取り組んでいく。

○意識調査の結果を受けて

- 昨年度課題だった「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合は、改善傾向にある。引き続き、活躍の場の創出を通して生徒一人一人の居場所づくりを進めていく。
- 「将来の夢や目標をもてる」ように、引き続きキャリア教育に一層力をいれて取り組んでいく。
- 「自分で計画を立てて勉強する」習慣をつけるために、計画を立てて学習することの大切さについて各学校で引き続き指導していくとともに、各学校で配布している家庭学習の手引きを一層活用していく。また、平日「家庭学習を1時間以上している」生徒の割合が54%で昨年度をさらに下回り、特に2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合が2割に満たないことから、自分の学習計画と実際の学習時間の相関関係について、生徒自身が振り返ることができるよう「見える化」を図り、家庭での学習の充実につなげたい。